

福島工業高等専門学校 学生会員○草野秀平
正会員 齊藤充弘

1. はじめに

現在、中山間地域では少子高齢化、人口の流出等による、本来地域が持つべきである、あるいは期待される機能の喪失が問題となっている。特に、いわき市において中山間地域に位置づけられる三和町は、人口減少や、基幹産業である農林業および伝統芸能の衰退等が問題となり、過疎化が進んでいる。また、労働力人口の減少や学校の統廃合問題等、人口減少による影響は各方面に及んでいる。そこでこのような影響に歯止めをかけ、安全・安心な住みよい環境を確保するために、中山間地域のまちづくりの必要性が高まっている。

本研究は、中山間地域に位置づけられる広域合併都市いわき市三和町を対象として、地区単位にみる構造特性について追究するものである。具体的には空間的・社会的にみる構造特性を把握するために、現地調査、ワークショップおよび住民アンケートを実施することで、旧村 11 地区毎にそれぞれの有する構造特性として抽出することができた財産や魅力、課題を明らかにする。その上で項目毎に分類して、地区間で比較分析することにより、それらの関係性を示し、空間的・社会的な構造特性を追及していく。

2. 研究の対象と方法

(1) 研究の対象

広域合併都市いわき市において、中山間地域に位置づけられる三和町を本研究の対象とする。昭和 30 年に三和村として誕生し、現在に至る三和町は、面積 214.90km² でいわき市内において最大の面積を誇り、人口 3,176 人、1,107 世帯の規模であり、旧村 11 地区から構成される。基幹産業としては、農林業が挙げられる。

(2) 研究の方法

町内 11 地区を単位として財産・魅力を抽出するために、以下の 3 つの調査を実施した。

第一に、地区の様子と環境、生活について把握することを目的として、三和町全地区(11 地区)の住民を対象にまちづくりアンケート実施した。

第二に、アンケート調査の結果を資料として用い、抽出することのできた財産・魅力や課題を具体化するために 11 地区毎にワークショップを開催した。

第三に、ワークショップにおいて具体的に抽出することのできた財産・魅力について、子供の世代(小中学生)がどのように捉えているのかや生活の様子を把握することを目的として、町内の小中学生を対象としてアンケート調査を実施した。

以上の 3 つの調査を通して、住民の意識や評価にみる財産・魅力や課題についてアプローチしていく。

3. 住民意識にみる空間構造特性

(1) 地区の様子について

図 1 は、住民アンケートにおいて尋ねた地区の様子を示す各項目について、「ありますか」という問いに対する回答割合を示したものである。全 14 項目のうち、「はい」という回答は、「風通しの良い場所」が 82.4%と最も高く、次いで「美しい自然環境・自然景観」が 79.9%となっており、「見晴らしの良い場所」が 67.6%、「居心地の良い場所」が 65.5%というように自然環境に関する回答割合が高くなっている。また、「郷土芸能、伝統行事、工芸」に関しても 74.7%と高い値となっており、財産・魅力としてあげることができる。一方、「美しい街並み、建物」が 14.5%、「魅力的な人」が 20.2%と回答割合が低い項目もみることができる。

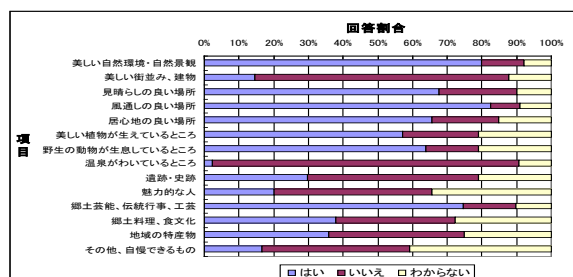


図1 地区の様子(住民)

(2) まちづくり要素の具体化

アンケート調査の結果を資料として、把握することのできた財産・魅力や課題を具体化するために、11 地区毎にワークショップを開催した。その結果、地区の財産・魅力として、全 308 の要素を抽出することができた。これを 6 つの項目毎に分類してみたものが図 2 である。全体としてみると「動植物」が 105 と最も多く抽出することができた。これを具体的にみると、イノシシやタヌキにみる「野生動物」、ホタルやイモリにみる「水生生物・昆虫」、コゴミやクレスンにみる「野草」、ナラやブナの原生林にみる「樹木」の 4 項目に整理することができた。同様に、「自然」については「山」(14)や「川」(3)、「湿原」(1)、「その他」(21)というように 4 項目に整理することができ、各分類について

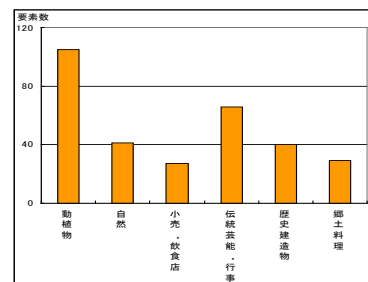


図2 財産・魅力(ワークショップ)

同様の整理を行った。

ここで、「自然」を構成する「山」について、ワークショップを通して抽出することのできたその捉え方をみたものが表1である。これを見ると、「素晴らしい景観」をはじめ、「野生動物や昆虫が生息するところ」、「山菜や野草が豊富」など、日常生活の経験に基づいた捉え方を多くみることができる。また、「小学生が植林する」場であったり、「地区の清掃活動を行う」場であったりと、日常生活においても活動する場であることがわかる。さらには、「洪水防止」にみるようになってはならないものとして捉えていることがわかる。

(3) 小中学生がみる地区の様子

小中学生アンケートにおいては、ワークショップを通じて抽出することのできた61の財産・魅力について地区毎に示し、知っているものについて○をつけてもらった。その結果、表2に示すように、「いわき三和インターチェンジ」が全地区で認知度が高く、実際に位置する永戸・沢渡地区では回答割合が88.6%と最も高い値となっている。また、三和町を代表する山である「水石山(水石山自然公園)」は、三阪地区を除く3地区で認知度が高く、水石山がある永戸・沢渡地区では92.4%と高い値を示している。一方、三阪地区では「芝山」や「長沢峠」の認知度が高くなっており、シンボルとしての山の捉え方が地区により異なることがわかる。さらに、認知度が特定の地区においてのみ高い財産・魅力もあげられる。永戸・沢渡地区でみると、93.7%の回答割合を示した「好間川」がその例である。好間川は三阪地区で17.1%、永井地区で24.3%である一方で高い値となっている。また、三阪地区においては、「三阪川」や「古峯神社」、「三阪川沿いの桜」、差塩地区においては、「差塩湿原」や「良々堂山」、「諏訪神社(差塩)」、「四門」を抽出することができ、特定の地区においてのみ認知度が高くなっている。

(4) 町の良いところ

小中学生のアンケートにおいて、町の良いところについて図3に示す11項目を選択肢として回答してもらった。その結果、「美しい自然」が最も多く、86.9%の回答割合となっている。次いで、「おいしい空気や水」(回答割合75.9%)とあるように自然環境に関する回答数が多くなっている。また、「お祭りなどのみんなが集まる行事」(同58.6%)についても、高い値となっており、住民アンケートの結果と同様、財産・魅力としてあげることができる。一方、「美しいまちなみや建物」の回答割合は10.5%となっており、住民アンケートと同様に低い結果となっている。

4. まちづくり要素としての財産・魅力

住民アンケートと小中学生アンケートにおける財産・魅力の結果を比較してみると、「自然」に関する項目のうち、「美しい自然」については、共通して高い回答割合となっている。そうした中で、「見晴らしの良い場所」や「美しい植物」に関してみると、住民アンケートの結果と比較して小中学生における回

表1 「山」の捉え方

要素	捉え方(意見)
山	杉山が地区の大半を占めており、自慢である 赤ヤシオの木やナラの木の原生林をはじめとする樹木も自慢である 野生動物や昆虫が生息しているところ 珍しい野草や山菜が豊富なところ 素晴らしい景観がある 小学生による植林活動が行われている 地区の清掃活動が行われている 洪水の防止になる

表2 財産・魅力(小中学生)

要素	地区(中学校区)	三阪	差塩	永井	永戸・沢渡
いわき三和インターチェンジ		○	○	○	○
水石トンネル		○			○
水石山(水石山自然公園)			○	○	○
芝山		○	○		
長沢峠		○			
好間川					○
三阪川		○			
古峯神社		○			
三阪川沿いの桜		○			
差塩湿原			○		
良々堂山			○		
諏訪神社(差塩)			○		
四門			○		

○…回答割合70%以上

答割合が低い形となっており、世代による捉え方の違いをみることができる。

また、「伝統芸能・行事」に関してみると、共通して高い回答割合となっている。こ

れは、地区の祭典や伝統芸能である「じゃんがら」や「獅子舞」、「やっちき」が世代を超えて参加する行事となっており、身近なものとなっていることが表れる形となっている。

一方、「美しい街並み、建物」に関してみると、共通して低い回答割合となっている。三和町内には、旧街道が走り、宿場町を起源とする集落もあり、面影を残している。それにもかかわらず、全体として認識されていないことより、財産・魅力となり得ていないといえることができる。さらに、いわき三和インターチェンジや水石山は、遠足や地区の行事等により利用頻度が高いことなどにみるように、初等教育の段階で取り上げられることが多いため、認知度が高くなっているものと考えられる。

5. おわりに

本研究の成果として、以下の点をあげることができる。

第一に、住民アンケートと小中学生アンケートの2つの調査を通して、住民意識にみる空間構成要素の捉え方を明らかにすることができた。

第二に、ワークショップを通して、空間構成要素を具体化し、まちづくり要素として整理することができた。

今後は、具体化することのできたまちづくり要素の活用方法について検討していくことが必要である。

参考文献

1) 佐川洋亮：中山間地域の構造特性について～いわき市三和町を対象として～、平成20年度土木学会東北支部技術研究発表講演概要集部門IV、pp487～488

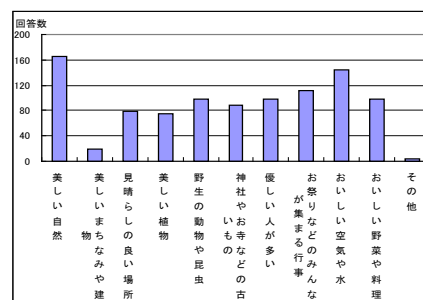


図3 地区の様子(小中学生)